
初めてのプロポーズ（前編続き）

ゆう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

初めてのプロポーズ（前編続き）

【コード】

N20280

【作者名】

ゆう

【あらすじ】

時間があつたら読んでみて下さい

「はい、もしもし花形です。」

「花形さんのご主人ですか？ やつと繋がったわ、こちら旭山病院の杉山と言います。奥さんが今日事故に遭われてこちらに入院する予定なのですが、今から来られますか？」

「は…？ 何かのイタズラですか？ 妻は寝室で寝てますが…。」
僕は受話器を持ちながら寝室のドアを開けた。そこに妻の姿はない。

まさか…本当に…。

「それで妻はどのような状態なのですか？」

僕は焦る気持ちを必死に抑えながら冷静に尋ねたつもりだったが、受話器を持つその手が微かに震えているのを感じた。

「幸い命に別状はありません…後は病院の方でお話致しますので…今から来られますか？」

命に別状はないと言う言葉を聞き、僕はほっと肩を撫で下ろした。

「分かりました、すぐに伺います。」
とだけ答えると受話器を置き、家を出た。

旭山病院はこの付近では数少ない救急指定総合病院の一つで、車で15分程行った先の丘の中腹にある。

最寄りの駅まで歩き、そこでタクシーに乗り変えた。

病院に着くと建物の端の方に救急入口と書かれた看板があり、そこを通り抜け病院の中へと入った。

中に入ると40代後半と思われる女性が立っていた。その胸には杉山と書かれている。

「すみません、花形です。妻は？」と言うと、

「花形さんのご主人さんですね？その椅子で少しお待ちいただけますか？」

と言われ、僕は椅子に座った。

しばらくすると、医者が僕を診察室へと招きいれた。

「あの、妻はどこにいるんでしょうか？」
と僕が尋ると医者は、

「恵美子さんは今病室で休まれています。傷の方も軽傷ですので心配はいりません。ただ、事故に合った際に頭部を強く打ち付けたみたいなのです…。検査所見では問題は見当たりませんでした…。」

医者はそこで口を止めた。

「何か問題でもあるのですか…？」

僕は恐る恐る尋ねた。

医者は少し間を置いた後、こう答えた。

「記憶を失っているようなのです…。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2028o/>

初めてのプロポーズ（前編続き）

2010年10月9日02時41分発行